

① 藤原さんが所有するクヌギやコナラの植えられた山林。



1

② クヌギ林には、昆虫が集まってきます。(キノコランドでの昆虫捕りは、7月中旬～8月中旬まで)



2



3

③ 伐採後、切り株から自然に出てくる新芽を成長させて、木を再生する方法を林業用語で「萌芽更新ぼうがこうしん」といいます。すでに地中に根が張っているので、次の成長は早くなります。

資源を有効活用した循環型の生産

原木シイタケ栽培の「キノコランド」を経営している大紀町の藤原さんにお話を伺いました。

原木の自給

シイタケ栽培に使用する原木は、藤原さん所有の山から調達してきたクヌギやコナラの木です。もともと山林にはスギやヒノキが植えられていました。昭和49年、藤原さんが先代より、シイタケ栽培を継いだ頃から、毎年クヌギやコナラを植え続けました。現在では約7ヘクタールある山林の約6割をクヌギやコナラが占めています。

クヌギは伐採後、すぐに新芽が出てきて、樹木を再生する性質を持っています。クヌギ林の伐採と再生の循環を維持することは、若い森林をつくり、二酸化炭素の吸収を向上させるなどの機能も期待されます。

「クヌギの新芽が出てくると、子どもが次の世代を継いでいるような感じがして嬉しい」と藤原さん。そして、

新芽を鹿の食害から守るため、網を張って、新しいクヌギの成長を温かく見守っています。

藤原さんが栽培する「ナツミ」というシイタケの品種は、植菌から約8カ月後に初めての収穫を迎えます。



▲シイタケ発生を促すための浸水作業。「浸水後のほだ木から、どれだけのシイタケが出てくるかというのが生産者の楽しみ」と藤原さん。



▲収穫したシイタケは「みえの安心食材」として出荷されています。

登録番号 50-103-190

認定
みえの安心食材
<http://www.mie-anshinshokudai.jp>